

中野区教育委員会会議録 平成22年第37回定例会

○開会日 平成22年12月10日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前10時01分

○閉 会 午前10時45分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員長職務代理	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(7名)

教育委員会事務局次長	合 川 昭
副参事(教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	古 屋 勉
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(生涯学習担当)	飯 塚 太 郎
中央図書館長(統括)	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	飛鳥馬 健 次
教育長	田 辺 裕 子

○傍聴者数 4人

○議事日程

〔議決案件〕

日程第1 中野区教育委員会委員の議席の決定について

〔報告事項〕

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 10/28 区長と教育委員との懇談について
- ・ 10/30 谷戸小学校就学前健診について
- ・ 10/31 中央中学校創立50周年記念式典・祝賀会について
- ・ 11/5 中野区教育振興会教育功労者表彰式について
- ・ 11/5 日本学校保健会会報委員会について

(2) 事務局報告事項

- ①いずみ教室名簿紛失事故について（生涯学習担当）

中野区 教育委員会
第 3 7 回定例会
(平成 2 2 年 1 2 月 1 0 日)

午前10時01分開会

飛鳥馬委員長

おはようございます。

ただいまから教育委員会第37回定例会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席でございます。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

初めに、11月27日に高木明郎委員が教育委員会委員に再任されました。本日が再任されて最初の教育委員会になりますので、ここで一言ごあいさつをお願いいたします。

<委員就任あいさつ>

高木委員

このたび、平成22年11月27日付で教育委員に再任されました。これまでの4年間は、少しずつ勉強しまして、また、なるべく学校現場を見るようにしまして、何とか自分なりにやってこられたのかなと感じております。現在の教育行政は、国においては、学級定数40人学級の見直し等の大きな変革期にあつて、中野区においても、待ったなしの改革、あるいは改善が迫られている大変厳しい状況だと思っております。確かな学力の向上、子どもの体力向上、それから、いじめの早期発見・早期対応などなど、多くの課題が山積みとなつていと認識しております。今後とも皆様にご指導いただき頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

飛鳥馬委員長

ありがとうございました。よろしくお願い致します。

それでは、日程に入ります。

<議決案件>

<日程第1>

飛鳥馬委員長

日程第1、「中野区教育委員会委員の議席の決定について」を上程します。

委員の議席については、中野区教育委員会会議規則第4条の規定により、委員長が指定することになっております。

ただいま着席している座席を高木委員の議席と指定をいたします。

以上で議決案件の審査は終了しました。

<報告事項>

飛鳥馬委員長

それでは、報告事項に移ります。

<委員長、委員、教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

委員長、委員、教育長報告です。

最初に、私、委員長のほうから報告をします。

私は、3日金曜日、定例の教育委員会はございませんでしたが、午前11時ぐらいから大和小学校の研究発表会がありましたので、午前、午後と授業を見て、さらに研究発表会に参加しました。大和小学校の研究発表は、今までやってきた各学校の発表とちょっと違いまして、体力向上、体育等の研究になるのですが、跳び箱を中心に研究された、それも1年から6年まで年間を通して指導するという非常におもしろい取り組みだったのかなと思います。1年生のときから体力をつける、要するに、跳び箱を跳ぶだけということよりも、跳び箱を跳ぶために腕で支える力がないといけないとか、跳ぶタイミングですね。踏み切るとか、そういう技術。そして、跳び箱というと、高さばかり競う学校が多いというのですが、そうではなくて、正しい跳び方できれいに跳ぶ、美しく跳ぶ、そういうのに非常に重点を置いてやっていました。

段階を追って小1からですから、体育館で腕の筋肉とかを鍛えるところから、5、6年生の宙返りみたいなこととか、いろいろなことをやりながら跳び箱をというので、非常にいい実践だったと思います。特に子どもたちが自由に自分の力を発揮できるエンジョイタイムというのがあって、できることを自由にやる。さらにそれができてくると、もうちょっと技術を上げようというチャレンジタイム、チャレンジがある。そういう細かい教育課程をつくってやっておりましたので、よかったなと思います。

そして、一番感激したのは、午前中、やまと学級の子どもたちが全員で跳び箱をやって、ああ、あそこまでできるのかと、子どもたちの可能性みたいなものを見たといいますか。もちろん、通常学級の子どもたちも頑張っているわけですけども、ああ、あそこまでできるようになるんだなというようなことを実感しまして、いい発表だったというふうに思っています。

それから、きのうは、生涯学習大学、今までのことぶき大学の閉講式に参加してまいりました。生涯学習大学の修了者は1年生が164人、2年生が159人、3年生は卒業生ですけ

れども82人で、全部で405人、非常にたくさんなのですね。それから、ことぶき大学院のほうは74名でしたけれども、それでも74名。全部で479人。500人近い高齢者の方が毎週集まっ
ていろいろな活動をされている。本当に尊敬したといいますか、頑張っている様子が……。
そういう活動に参加している間に、人と会うのが楽しみだとか、体が少し軽くなったとか、
動くようになったとか、そういう話をお聞きして非常にうれしいなと思いました。

あと、卒業証書、修了証書授与。それから、皆勤賞というのがあって、3年間無欠席と
いう方が5人おりました。すごいですね。頑張られたなと思いましたけれども、これもま
た勇気づけられました。

もう1点は、イベントで、修了者の3年生が「中野長者伝説」というのを……。中野に
人が住んで、村や町をつくっていくような伝説があって、それを劇にしたのですね。それ
は、50人近くの方が全員舞台上上がるという劇でしたけれども、なかなかおもしろかった
です。

あと、合唱で、卒業する親御さん、お母さんがいて、そのお子さんが合唱の指導者をやっ
ていて、有限会社をつくって合唱を専門に指導している方がおるのですけれども、この方
本人はプロなのだと思うのですが、参加されている方はみんなアマチュアなのです。10人
ほどいるのですけれども、「銀行員の方」とか「公務員の方」とかと言うと、みんな手を挙
げるのです。これもまたすばらしい。アンサンブルベルというのですね。ルネサンス音楽
というのは私もよくわかりませんが、物すごく昔の古い音楽を基礎に合唱をやっていて、
そして、ボランティアであちらこちらに呼ばれては音楽を広めているということで、中野
にお住まいだということをお願いできたようすけれども、これもまたなかなか。すばら
しいのは、3年修了の方が生涯学習大学の歌を作曲してくださいまして、皆さんに歌唱指
導もしてくれて、歌ってという、非常に活気のあるといいますか、そんな会でした。

あとは、申しおくれましたが、29日は、文部科学省で大学を対象にした、大学の幹事を
集めた研修会というのがありまして、そこにちょっと参加していろいろ勉強してきました。
私が、そういう見方はすごいなと思ったのは、その研修会の中で、静岡産業大学の学長ら
の方が講演されたのですけれども、今まで大学というのは高いところにおいて、学生はそっち
のけみtainな感じがあるのですが、そうではなくて、やはり学生にわかるように、できる
ようにさせるのが大学であると。最近では就職まで面倒を見なければいけないと。そうで
なかったら大学の生きる道はないみたいな。大学の生きる道みたいなものですね。財政難、
財政難と言って、お金がないと言うけれども、それはチャンスなんだと。お金がないから

改革しなければいけないし、それをどう生かすかというのがチャンスだと。ない、ないと
言って何もできなかったら何にもならないと言うのです。すべてそういう見方があるので
すね。高度成長のときには何もしなくても経済は大きくなったし、給料もどんどん上がっ
てよかったけれども、低成長、マイナス成長になったらそういうことはないわけですから、
高度成長のときは何もしなくてよかったけれども、今はしなければいけないのだと。それ
がチャンスなのだと言うのです。そういう見方です。

教育で言うと、大学の先生ですから——私の時代はそうでしたけれども、大学へ行くと
200人教室か300人教室で授業が行われていた。とんでもない、あれは授業ではない、講義
だと。あんなのは授業にならないと。今、少子化で学生が減って、本当に教育をやるチャ
ンスが来たのだと。そういう見方なのです。本当に目からウロコが落ちましたね。いろい
ろなことがありましたけれども、日本の高齢化で福祉とかが困るとか言っているけれども、
高齢化というのは、日本は国全体がノーベル賞をもらっていいのではないかという見方な
のです。みんな寿命が延びて、というすごい発想です。

なかなかうまくいかないことはたくさんあると思うのですけれども、そんな話を聞いて
きて、ちょっと考え直さなければいけないかなという勉強をさせていただきました。

ちょっと長くなりました。申しわけございません。

では、山田委員、お願いします。

山田委員

12月7日に、中野区立小学校の連合音楽会がなかのZEROの大ホールで行われました
ので、見に行ってみりました。ことしは、南部の小学校11校が集まっての演奏と合唱の
会で、僕は午後の部に出たのですけれども、開場される前に会場の前にたくさんの方が並
んでいらっしまったのです。保護者の皆さん方が鑑賞しに来ていただいて非常にうれしく
思いました。2階が保護者席だったのですけれども、始まるころにはかなりいっぱいになっ
ていて、途中でも、「かなり込んできましたので、譲り合って席をお使いください」という
ようなアナウンスがあって、保護者の皆さんも非常に楽しみにしている音楽会だったの
ではないかなと思っております。各学校とも合唱あり、合奏ありで、いろいろ工夫された題
目であったりということで、すばらしい音楽会が開催されました。また、途中で音楽専科
の先生方が子どもたちが使っているリコーダーを中心に職員合奏という形でやられました。
リコーダーも練習すればこんなにうまく吹けるのよという見本を示されたのではないかな
と思いますけれども、子どもたちにもよい見本になったのではないかと思います。また、

合奏の中では、私が学生のころ聞いていましたサイモン&ガーファングルの歌ですとか、懐かしいものが演奏されていましたので、思わず聞き入ってしまいました。すばらしい音楽会だったなと思います。

この日はなかのZEROホールで行われたのですけれども、なかのZEROには隣に機関車広場というのがあって、そこには子どもたちが使うちょっとした遊具があるのです。実は、そこに住みついてしまった人がいまして、この朝出火したのです。僕は毎朝のように犬の散歩に行くものですから、警察の車が4、5台来たのと消防車が3台ぐらい来たので何が起きたのかなと思ったら、実は公園の中の、子どもたちが入るような、小さな遊具のところに、多分住んでいるのだらうなと僕も思っていたのですけれども、その朝、そこから火が出ました。せっかくの子どもたちのための公園なのですが、そういった形で利用されるのは非常に残念だなと思っております。特に先ほど委員長が話しましたように、もみじ山は今モミジがきれいな季節なので、その辺は区民の子どもたちのための広場ということこれからしっかりと私たちもいろいろな意味で検討しなければいけないのかなと思いました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、大島委員、お願いします。

大島委員

私は、11月28日の日曜日に、ZEROホールで早稲田大学のメイプル・コンサートというのがございまして、聞きに行っていました。早稲田大学の交響楽団という立派なオーケストラがありまして、中野区の教育委員会と早稲田大学の共同の主催という関係もあるので、教育委員もご招待していただけたというような関係で行っていました。

曲目は、シュトラウスのワルツなどを中心にした比較的親しみやすい曲が多かったです。「スケーターズワルツ」とか「ウィーンの森の物語」とか、いろいろ楽しい曲を演奏していただいて、大編成のオーケストラなので、オーケストラの音というのはすばらしいな、迫力があるなというのを改めて実感してまいりました。アンコールのほうで、「ラデツキー行進曲」もやっていただいて、聴衆のほうもみんな手拍子で参加するという楽しい曲もありました。何ととっても、早稲田大学のオーケストラだということを実感しましたのは、最後に「都の西北」の演奏がありまして、ああ、早稲田大学だなと。私、出身ではございませんので、残念です。

それから、12月3日は、今、委員長のほうからもお話がありましたように、大和小学校の研究発表会に私も行ってまいりました。今、詳しいご説明があったのですが、跳び箱の授業ということなのですが、私も本当にすばらしいなと思ったのは、やまと学級のほうの授業で、初めに、動物の形に似せた準備運動といますか、要するに手をつく形の運動を準備運動で一生懸命やっておりました。昔、我々子どものころは、床に手をついてぞうきをさーっと滑らせていく「ぞうきがけ」というのをやったわけですが、今、そういう手を床につくという姿勢をやるのがほとんどなくなったのではないかと思うのです。床に手をついて進むとか、はって、上体を起こしてへびみたいに進むとか、あとはカエル跳びとかいうようなこととか、ふだん余り使わない姿勢、使わない筋肉を使ったような、そういうのをやっていて、アザラシ、クマ、イヌとか、いろいろあるのですが、体の筋肉を発達させるのにすごくいいのではないかなと、素人考えですが、思っておりました。

あと、準備運動で、体育館の中を5分ぐらいみんなで一生懸命走るというのをやりました。やまと学級の子どもたちはみんなすごく元気で、軽々と走り抜いておりましたし、跳び箱もみんなすごく上手でした。私が特に関心したのは、跳び箱を跳び終わったら、次の人に対して、はい、次行っていいよという意味で右手を挙げて、次の人もそれを見て右手を挙げて、はい、わかりましたという合図をするのですが、それがすごく徹底してされていました。これは通常学級のほうの授業でもみんな徹底してされていたのです。やはりそれはぶつかったりしないように安全のためということらしいのですが、そういうところもきちんとやっておりましたし、決してぶつかったりしないように、みんなちゃんとわきまえてやっておりました。先ほど委員長のほうからも、教育の成果というのがすごく感じられたというお話がありましたけれども、私も、そういうところから体育の授業を受けるいろいろなルールを学ぶということからも、教育の力というのはすごいなと思いました。

通常学級のほうも跳び箱をやっているのですが、この前まで跳べなかったのがその授業で跳べるようになったというような子が何人もいました。最後にそういう成果を発表する時間があって、1人の子は全然できなかったのが何回かやっていてやっと跳べるようになったという話で、じゃあ、やってもらおうというようなことで、その子が実演しまして、本当に軽々と跳べるようになったので、ああ、すごいなと。その子が授業の初めにはできなかったのだけれども、だんだんできるようになるというのを、私も1時間ずっと目で見て

いましたので、いや、すごいなというふうに思ったりしました。大変すばらしい取り組みではないかなと思いました。

それから、12月7日にZEROホールで小学校の連合音楽会がありまして、私も聞きに行っていました。今、山田委員のほうからご説明があったとおりなのですが、本当に各学校とも上手で、先生方のご指導がすごく熱心だし、いいのだろうなというふうに痛感しました。それと、3、4年生が出ている学年、あるいは4年生が出ている学年もあるのですが、後半のほうでは、5年生が出ている学年があって、聞き比べると、5年生の学年は、歌にしろ、合奏にしろ、一段と音もはっきり出ていて上手だし、1年間の差というのはすごく大きいなと思いました。それも、先生方の指導のたまものなのだろうと。もちろん、それと、子どもさんたちの成長ということもあると思うのですが、そんな1年ごとの成長の違いということも実感したりしました。曲目も、いろいろバラエティーに富んでいて、先生方の合奏の「アメージンググレース」もすごくすばらしかったし。ということで、大変楽しい音楽会でございました。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

11月29日午前9時、先ほどお話ししたとおり、中野区教育委員会の教育委員として任命されました。田中区長から発令通知書をちょうだいいたしました。

12月1日の1時から、今度は中野区議会で簡単にあいさつをさせていただきました。

それから、12月4日の土曜日ですが、子どもの行っている丸山小学校の展覧会と学校公開を見に行っていました。丸山小学校は、実は今、緑野小学校への統合に向けて体育館を改築していますので、体育館が使えないです。廊下ですとか、図工室、家庭科室、多目的室で分散して展示をしたのですが、12月の頭の土曜日ということもありまして、保護者の方がかなり大勢来てまして、そこで廊下に張っているのが、大変混雑してちょっと見にくかったかなと。ただ、いろいろ工夫をしまして、学校のほうでも、1年生と6年生、2年生と4年生、5年生と3年生の子どもたちがペアになりまして、お互いに展示を紹介するというふうな異学年交流とかもまぜて、なかなか工夫はされているかなということでございました。

あと、今週12月8日水曜日ときょうの金曜日なのですが、丸山小学校の保護者の割り当

てで、横断歩道の立ち番というのをやらせていただきました。かもパトロール隊、通称「かもパト隊」と言うのですが、通学路の何点か、危険なところに保護者と地域の町会の方が立ってくれています。町会の方は、かつてはご自身、あるいはお子さん、お孫さんが通っていたかもしれませんが、現在は通っていない方もボランティアで交代で立っていただいて、本当に頭が下がる思いでございます。

私が立ったのは、アポロ園という療育センターの前の横断歩道でございます。7時50分から8時20分まで、出勤前なのでスーツを着て、コートを着て、その上に緑のベストを着て、黄色い旗を持って、丸山小学校と緑野中学校の生徒が50人ぐらいですか、元気よくあいさつをしていって、また、アポロ園の職員の方もあいさつをしてくれました。その道路というのは割と見通しがいい直線道路で、歩車分離してまして、道幅もそこそこ広いのです。新青梅とちょっと同じぐらいで、結構スピードを出して通るので危ないのは危ないのです。信号は、徳殿公園のところから新青梅までずっとありませんので、子どもが渡るときにタイミングを間違えると事故がある。けさは工事のトラックが歩道の前に4台ぐらいとまりまして、ちょっと行って、「済みません」と言ってどけてもらったのですが、やはりそういうことが結構あるらしいのです。工事現場にはなかなか9時前に行けないとかいうこともあるのですが、2台ぐらいとめられてしまうと本当に見通しが悪くなりまして、保護者なりが誘導してあげないと危ない。なるべく「どいてください」と言うのですけれども、中には「えっ！」とかと言う怖い運転手さんもいて、お母様とかだとなかなか動いてくれないというような悩みもあったようで、そこら辺はきょうは怖い私が行けたのでよかったですかなと思っております。

私からは以上です。

飛鳥馬委員長

では、教育長、お願いします。

教育長

私のほうからは、情報の漏えい事件のご報告をします。

後ほど担当のほうから詳細なご報告はさせていただきますけれども、いずみ教室という障害のある方々を対象にした事業の中で、ボランティアの方も大勢参加をしていただいて、ボランティアの方々によって成り立っているような事業なのですが、第1と第2で対象の方は総勢100人ぐらいおられる事業で、ボランティアも相当な数が入っている。第1いずみ教室のほうで、今回、名簿を紛失してしまったということなのです。通常、公務員という

か区役所は情報の管理というのは徹底していかなければいけないし、障害のある方については特に細心の注意を持ってそういうことを取り扱っていかなければいけない中で起こしてしまったということで、事務局を統括している、職員を指導しなければいけない立場として本当に申しわけないというか、信頼を失ってしまったということでおわびをさせていただきたいというふうに思っております。名簿はまだ出てきていないのですけれども、対象の方全員にご連絡をさせていただいて、経過についてまず第一報はご連絡をさせていただいておわびをさせていただきましたが、改めて文書と謝罪、それから説明の機会を設けさせていただきたいというふうに思っております。申しわけありませんでした。

飛鳥馬委員長

よろしいですか。

それでは、各委員からの報告につきまして、質問、発言等がありましたらお願いします。

山田委員

委員長から報告がありました生涯学習大学、前は「ことぶき大学」と称したのですけれども、名称が「生涯学習」という名前が変わったということになると、年齢的な制限とか今は多少あるのだと思うのですが、その辺は今後どうするのか。もちろん、今後、団塊の世代の方たちが地域にたくさんおりてくるということもありますけれども、今後どのように運営するのかということと、あと2年後には中野区にもいろいろな大学が来ますので、そことの連携も視野に入れた大きな方向性が見えてきていいのではないかなと思うので、その辺、これからの方向性についてももしおわかりになればご発言いただきたいということが1点。

それから、大島委員がお話しになったメイプル・コンサートですか、早稲田大学のオーケストラというのは全国に冠たる大学のオーケストラだと聞いておりますので、ぜひこういった催しは1回だけでなく、今後も区民のために開かれたということで行っていただければと思うのです。せっかく早稲田が中野に来てくださるということですから、ぜひこのメイプル・コンサート、名前はどうか、ぜひ継続していただければと思うので、その点は希望です。よろしく願いいたします。

副参事（生涯学習担当）

「生涯学習大学」と名前を変えて、若干年齢を……。今まで60歳以上ということだったので、55歳からも受講できるようにしたということがございます。これにつきましては、補助金との関係等がありますので、どのくらいまで門戸を広げるのかというよ

うな問題は今後あるかと思いますが、「生涯学習大学」の名前にふさわしいようにできるだけ努力していきたいというふうに考えております。

それと、大学との連携につきましては、大学は3校新たにできるということもありますし、今年度から短大が四年制になったということもありまして、こういったところともしっかりと連携していきたい。今でも生涯学習大学というのは早稲田大学のゼミと連携しまして、生涯学習大学の受講生が早稲田大学に行って、若い学生たちと一緒に議論したり、そういう試みをやっているのですが、今後こういうことはますます広げていきたいというふうに考えております。

それと、メイプル・コンサートの件ですが、確かにこれは非常に貴重な試みだと思いますし、低額な料金で区民の方にクラシックを楽しんでいただくというのが趣旨であったのですが、これはかなり早い時期に一般席が売り切れてしまいまして、人気も非常にあるということで、来年度以降も続けることにしておりまして、今後これが中野と早稲田大学の恒例事業になればというふうに考えております。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

ほかはよろしいでしょうか。

生涯学習大学だと、1年、2年、3年で卒業というふうに思ってよろしいのですか。大学院がなくて。そうすると、55歳だとかなり若いうちに卒業になってしまう人がいると思うのですがけれども、その後は何かあるかどうかですね。

副参事（生涯学習担当）

生涯学習大学そのものは一応3年で終わるのですが、これは地域活動に入るためのきっかけづくりというような趣旨もありまして、各地域に地域ことぶき会というのがつくられております。そういったところを通じて、ぜひ地域で活躍していただきたいというふうに考えております。ボランティアとか、さまざまな学習活動とか、そのような方向に私どもとしては道をつくっていきたいというふうに考えております。

飛鳥馬委員長

ほかの自治体で、卒業された方がボランティアを中心に、というようにやっているところもありますので、よろしくお願いします。

ほかはよろしいでしょうか。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

そうしましたら、事務局報告に移ります。

初めに、ただいま教育長から話がありましたが、「いずみ教室名簿紛失事故について」の報告をお願いします。

副参事（生涯学習担当）

「いずみ教室名簿紛失事故について」、ご報告を申し上げます。

発生したのが12月5日曜日、午前10時45分からお昼の12時30分までの間ということでございます。発生場所というのは、中部すこやか福祉センター、もしくは中野区中野1-32付近。この住所は、実は途中で立ち寄ったレストランのある住所でございます。このどちらかではないかと推測されるわけです。

概要でございますが、いずみ教室の当日のプログラムというのが「外に出よう」という催しでございまして、グループに分かれて区内を散策するという事業をやっておりました。この第1いずみ教室のグループに随行した職員がこの行程の途中で、私物でございます手提げのかばんを紛失してしまいました。かばんには、第1いずみ教室の学級生及びスタッフの個人情報に記載した名簿を入れていたわけです。迷子になってしまったり、途中でけがをしたりということが珍しくありませんので、連絡がつけられるようにこういうものを持っていたのですが、なくなってしまったということで急いで付近を捜索しまして、警察に遺失届を提出いたしました。現在のところまだ発見されていない状態でございます。大変申しわけないことだと思っています。

紛失した名簿の内容でございますが、学級生56名の氏名、住所、電話番号、生年月日、愛の手帳番号等です。それから、スタッフ35名の氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、生年月日等、そういうものが記載されてございました。

対応といたしましては、先ほどちょっとお話があったように、学級生の保護者及びスタッフ全員に対しまして電話で事故の概要説明と謝罪を行いました。今後、文書での謝罪、それと経過説明も行う予定でございます。もちろん名簿の検索は今後も引き続き行っていくというふうに考えております。

再発防止策でございますが、これは職員の認識が甘かったのではないかとということで、まず職員への厳重な注意喚起。これはもう何度か行いました。個人情報の取り扱いについては、その事業について何が必要最小限の情報なのかということをきちんと確認した上で、しかも適正に管理するということを徹底する、そのように考えてございます。

以上でございます。

飛鳥馬委員長

ただいまの報告に何か質問等はございますか。

高木委員

いずみ教室は、私どもの学校でもボランティアで手伝わせていただいております。私も引率して一緒に参加しているのですが、私どもの学校は専攻が英語とコンピュータで、福祉の学科ではありませんので、私どもの学生は、外に行く活動のときはレベル、難易度がちょっと高いので、教室内、あるいは体育館での活動が主なときに参加させていただいております。学級生の方は予測不能な行動をとるので、そこでスタッフの方も――職員の方はもちろん職員なのですけれども、スタッフの方はボランティアで来ていて、なかなか大変だなと。なくなっていいということではないのですけれども、外に行くのは非常にリスクが高い。ただ、こういうことがあったから外に行かないというのも……。障害がある方は、日常は軽作業をやったり、仕事をしたりしていて、月2回のこのいずみ教室を大変楽しみにしているのですね。これが一つの生きがいになっていますので、いずみ教室の活動自体には影響が出ないようにしていただきたいのが1点。

確かに、ここに書いてあるように、けがをしたりするケースがありますので、持っていかなくてはいけないのです。実は私もそのときには学生のリストを持っていくのです。でも、そのときには、万が一ということを私も考えていますので、学籍番号と名前を書いたものは持っていきますけれども、住所とかは学校のほうに置きっ放しなのですね。ですから、ここに書かれているように、段階を少し追って、紛失してもいいというやり方はちょっとよくないと思うのですけれども、最低限の情報の徹底というのが要るのかなと。これは、いずみ教室だけではなくて、学校教育全体で児童・生徒・園児の情報の管理というのはすごくありますので、私どもの学校でも最近はずごく気を使っています。幼稚園・小学校・中学校でもそういうことは気にはしていると思うのですけれども、これがいずみ教室だけではなくて、もう一つ中野区の教育行政全体の個人情報の管理ということで、もう1回注意喚起を……。これは、してし過ぎるということがありませんので、やっていただいたらよろしいかなと思います。

副参事（生涯学習担当）

まさしく委員おっしゃるとおりだというふうに思います。ここにも書いてあるように、最低限の情報ということはもう当たり前の話なのですが、それが徹底をされていなかった

ということもあります。全体的な周知徹底というのは教育委員会内部も含めて全庁的にこれを一つの教訓といたしまして、警視庁のほうから注意喚起があったということでございます。

それから、事業の継続の話ですけれども、もちろん、こういうことでこの事業がなくなるということは全く考えておりません。年2回外に出ていっているのですけれども、参加をされる方々も本当に楽しみになさっている事業ということもありますので、だからこそ、私どももより気をつけて注意を喚起しながら実施していきたいというふうに思っております。

それから、この事故が起きた中身を全員の方にお話をした中でも、特におしかりの言葉等はございませんでした。これでなくなるということもないというようなことも含めて、感触としては、皆さんご理解をいただいているなというふうに思っております。これからの事業の継続も含めて、さらに注意喚起をしていきたいというふうに思います。本当に申しわけありませんでした。

飛鳥馬委員長

ほかはどうでしょうか。よろしいですか。

大島委員

まず第一には、職員の意識・認識を高めるということはもちろん必要なことなのですが、今、高木委員のほうからもお話があったように、人間というのはどこかでミスをするということはあり得ることではあるので、仮にそういうミスで紛失とかということがあっても、最小限の情報漏えいにとどめられるようなシステムづくりも大事だと思いますので、外に出るときにいろいろな詳しい情報が書いてあるものを持って出なくてもいいような仕組みを何か考えていただきたい。今、多分、事務局の方はいろいろ考えていると思うのです。私もこういうのがいいよという名案が今あるわけではないのですけれども、例えばの話、外に出るときには名前ぐらいだけを把握していて、あと、詳しい情報は、本部といいますか、本部にだれかがいて、そちらにすぐ連絡をとって、「その人は〇〇の住所」というような、必要なときだけ情報を得られるみたいな、そういうこととかで、外出するときそういう詳しい情報を持って出なくていいような方法を考えていただけたら、より防止策としていいのではないかなというふうに今思いました。

飛鳥馬委員長

ほかはよろしいですか。

副参事（生涯学習担当）

今おっしゃられたように、必要でない情報というのは持って歩かなくていいようにという事は私どもも十分考えていきたいと思えます。外に出る場合には、どうしても必要な情報というのもあるのですが、それについても、仮にこういうことが起こったとしても最小限の被害で済むような方法は今後とも考えていきたいというふうに考えています。

飛鳥馬委員長

工夫していただけたと思いますが、記載内容の検討と、お持ちになる方も、お1人なのか、また、ボランティア等が持っている場合もあるかもしれないので、その辺の確認とかもいろいろあるかなと思えます。

それからもう1点、今、高木委員から言われましたけれども、私たち、幼稚園から小・中学校まで対象ですので、特にこの時期、先生方のそういう紛失事故というのが全国的にはよく聞こえる時期なのです。つまり、成績を処理する時期、それから進路相談の時期。ついうちに持っていきたくなくなったりとか、途中でどこかへ寄って一杯、なんていうので忘れてきたり。ないことを祈りますけれども、そういうことが時々ありますので、そういうことも含めて、個人情報の徹底した管理をよろしくお願いしたいなと思っています。

よろしいでしょうか。

それでは、ほかに事務局報告はございますか。

事務局

ございません。

飛鳥馬委員長

ほかに報告事項がないようですので、以上で本日の日程を終了いたします。

これもちまして、教育委員会第37回定例会を閉じます。ご苦労さまでした。

午前10時45分閉会